(申請内容ファイル)

2．現在までの研究状況（図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。様式の変更・追加は不可(以下同様)）

　① これまでの研究の背景、問題点、解決方策、研究目的、研究方法、特色と独創的な点について当該分野の重要文献を挙げて記述してください。

　② 申請者のこれまでの研究経過及び得られた結果について、問題点を含め①で記載したことと関連づけて説明してください。

　　なお、これまでの研究結果を論文あるいは学会等で発表している場合には、申請者が担当した部分を明らかにして、それらの内容を記述してください。

|  |
| --- |
| 研究の背景と問題点　１．研究の一般的な背景（約５０〜７５文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。しかし、２．対象分野全般において問題が生じている原因（約２５文字）が困難であることから、問題点の説明（約２５文字）○○○○○○○○○○○○○○はほとんど明らかに（考慮）されてこなかった。　最近になって、３．今回の研究テーマにおける、当該問題の状況（約５０文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○が明らかにされつつあるが[文献]、４．今回の研究で解決を目指す具体的な問題点（約２５文字）については未だに不明である（図１）。　こうしたことから、５．この問題による弊害（最悪の未来）（約５０〜７５文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。図１　見出し分野外の人にも図の見方がわかるように説明します。可能であれば、左の本文と高さがおなじになるように図や説明文の幅や長さで調節します。２. 解決方策と研究目的　６．問題解決のアイデアを理解するための背景（５０〜１００文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。申請者は、７．問題解決のアイデア（約５０〜１００文字）をすることで、○○○○○○○○○の問題を解決できるのではないかと考えた。そこで、本研究では、８．研究目的（約〜５０文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を目的として研究を行った。３．研究方法とこれまでの研究経過（１）研究課題名１　９．研究方法１の説明（約２５文字）○○○○○○○○し、１０．具体的にしたこと（約３０文字）○○○○○○○○○○○○○○○を行った。これにより、１１．明らかにしたこと１（約３０文字）○○○○○○○○○○○を明らかにした。さらに、１２．明らかにしたこと２（約３０文字）○○○○○○○○○○○が示唆された。これらの結果から、１３．結果のまとめと結論（約３０文字）○○○○○○○○○○○。（２）研究課題名２　１４．研究方法２の説明（約２５文字）○○○○○○○することで、１５．具体的にしたこと（約３０文字）○○○○○○○○○○○○○○を解析した。その結果、１６．明らかにしたこと１（約３０文字）○○○○○○○○○○○を発見した。くわえて、１７．明らかにしたこと２（約３０文字）○○○○○○○○○○○の可能性があることも示された。これにより、１８．結果のまとめと結論（約３０文字）○○○○○○○○○○○を可能にした。図１　「何が問題か」を審査員にわかりやすく示すための図をいれます。ここでは、図・説明文ともに幅70mmにしています。高さはおよび幅は本文と終わりを揃えるために微調整します。幅は、行末の単語にも影響しますので注意して変えます。図と説明文の幅は申請書全体を通して共通にします。図に枠や背景色は不要です。 |

 申請者登録名　○○　○○○

|  |
| --- |
| （現在までの研究状況の続き）　これらの結果から、１９．これまでの研究の結論１（約〜５０文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を明らかにした。また、以前は２０．これまでの研究の結論２、特にこれまでとの違い（文全体で５０〜１００文字）であった○○○○を○○○○し、○○○○を明らかにした（図2）。こうした結果は、申請者の仮説である２１．仮説を簡単に説明（約３０文字）○○○○○○○○○○○○を支持するものであり、２２．本研究の総評（約３０文字）○○○○○○○○○○○○であった。　これらの成果は２３．外部発表（文全体で約５０文字）○○○学会で発表するとともに、○○○誌に掲載された。４．本研究の特色と独創的な点図２　見出し図１の説明文の注意と同じです。高さが同じになるように（文の終わりが揃うように）気をつけます。図2　「何を明らかにしたか」を説明するための図をいれます。図・説明文の幅や高さについて諸注意は図１と同じです。* 幅は全ての図で共通。行末の単語を見ながら微調整
* 高さや説明文は左の本文と高さが同じになるように調整

　本研究で解析した△△△は当該分野に限らず、○○など多くの分野が抱える重要な問題である。今回、明らかになった２４．研究の特色、特に汎用性・一般性（文全体で約２００文字）によって、より幅広い視点から△△△を理解することが可能になった。このような、分野を超えた普遍的な視点で、△△△という重要な問題の解決を目指すアプローチが本研究の特色である。さらに、本研究で用いたXXXは申請者の独自の着想により開発した手法である。 |

3．これからの研究計画

(1) 研究の背景

　　2.で述べた研究状況を踏まえ、これからの研究計画の背景、問題点、解決すべき点、着想に至った経緯等について参考文献を挙げて

記入してください。

|  |
| --- |
| 　２５．(4)の問題点のおさらい（文全体で約５０〜文字）を明らかにする上で、○○○○○○が問題であった。申請者はこれまで、２６．これまでの研究のおさらい（文全体で約１００文字）を研究対象とし、○○○○○○○○○○○○○○○することで○○○○○○○○○○○○○○の解析を行ってきた。しかし、２７．(4)の問題を解決するために残されていて、本研究で取り組む問題（約７５文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○することが次の課題である。　こうした問題を解決するため、申請者は２８．問題解決のヒントとして着目したこと（約５０文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○に着目した[文献]。２９．(28)の解説（約５０〜７５文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。このことから、３０．本研究のアイデア（文全体で約７５〜１００文字）○を○○○○○○○○○○○○することで、○○○○○○○○○○○○を明らかにできるのではないかと考えた。　そこで本研究では、３１．(27)で説明した問題を解決するために具体的に明らかに（開発）することの内容（約１００文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ことを目的とする。これにより、３２．本研究により解決できること１（バラ色の未来１）（約３０〜５０文字）○○○○○○○○○○になるだけでなく、３３．本研究により解決できること２（バラ色の未来２）（約３０〜５０文字）○○○○○○○○○○○○○○○○が可能となる。 |

 申請者登録名

(2) 研究目的・内容（図表を含めてもよいので、わかりやすく記述してください。）

　① 研究目的、研究方法、研究内容について記述してください。

　② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、具体的に記入してください。

　③ 共同研究の場合には、申請者が担当する部分を明らかにしてください。

　④ 研究計画の期間中に異なった研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することを予定している場合はその旨を記載してください。

|  |
| --- |
| 研究目的　本研究は３4．(31)の研究目的のおさらい、研究計画１・２に相当（約１００文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を目的とする。くわえて、３５．付随的に明らかにすること、研究計画３に相当（約〜５０文字）○○○○○○○○○○○○○を明らかにする。研究内容（１）研究計画１　３６．計画１を行う簡単な背景（約３０文字）○○○○○○○○○。そこで本研究では、３７．することを簡潔にまとめる（約３０）○○○○○○○○に取り組む。（１−１）計画１−１　３８．この計画で扱う手法・背景を簡潔に説明する（約３０文字）○。これを利用して、３９．具体的にすることを説明する、（文全体で約５０〜７５文字）○○○○○○を行い、○○○○○○○○○○○を明らかにする。申請者はすでに、４０．すでに着手していること、予備データ（文全体で７５〜１００文字）○○○○○○○○について検討を始めており、予備的ながら○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○という結果を得ている（図３）。まずは、この結果の再現性を得ると共に、より詳細な解析を行うことを目指す（ここ微妙）。（１−２）計画１−２４１．この計画で扱う手法・背景を簡潔に説明する（約３０文字）○○○。そこで、４２．具体的にすることを説明する、「何を」（文全体で約５０〜７５文字）○○○○○○についても解析を行う。この解析を通じて、○○○○○○○○を明らかにすることで、本研究の仮説である、４３．(30)仮説のおさらい（文全体で３０〜５０文字）○○○○○○○○○について検討する。図３　見出し分野外の人にも図の見方がわかるように説明します。可能であれば、左の本文と高さがおなじになるように図や説明文の幅や長さで調節します。図３　「何をするか」を審査員にわかりやすく示すための図をいれます。図・説明文の幅や高さについて諸注意は図１と同じです。計画全てについては説明できませんので、一番重要かつ手堅い計画１に絞って説明します。計画全体のフローチャートを入れる人もいますが、あってもなくても良いような図であれば入れないほうが良いです。（２）研究計画２　４４．この計画で扱う手法を簡潔に説明する（約３０文字）○○○。これを利用して、４５．具体的にすることを説明する（文全体で約５０〜７５文字）○○○○○○を行い、○○○○○○○○○を明らかにする。仮に、４６．想定されるうまくいかないケース（約３０〜５０文字）○○○○○○○○といった理由などにより、うまくいかない場合には４７．代替案（約３０文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○を行う（についても検討する）。（３）研究計画３研究計画１・２で得られた結果を元に、４８．比較的確実な研究計画1,2の結果を組み合わせた、やや挑戦的な研究計画（約４０文字）にも取り組む。具体的には、４９．具体的にすること（文全体で約７５〜１００文字）○○○○○○○○○○○○を行うことで、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を明らかにすることを目指す。 |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　申請者登録名

(3) 研究の特色・独創的な点

　　次の項目について記載してください。

　① これまでの先行研究等があれば、それらと比較して、本研究の特色、着眼点、独創的な点

　② 国内外の関連する研究の中での当該研究の位置づけ、意義

　③ 本研究が完成したとき予想されるインパクト及び将来の見通し

|  |
| --- |
| 　これまで５０．(27)の課題が解決されずに残されていた理由（約７５文字）という理由から、○○○○○○○○○○○○○○○○○れてこなかった[引用文献]。本研究は、５１．申請者のアドバンテージ（約３０文字）○○○○○○○○により、５２．達成できること（約３０文字）○○○○○○○○○○○○○を明らかにしようという点で極めて独創的な研究である。また、こうした研究を通じて、５3．予備的な結果（約３０文字）○○○○○○○○○○○○○○をすでに見出しており、先進性という点においても他にさきがけている。さらに、５4．他にアピールできる点（約２５文字）○○○○○○○○○○である点も、本研究の重要な特色である。　本研究によって、５5．解決できる問題１（約２５文字）○○○○○○○を明らかにできると期待される。さらに５6．解決できる問題２（全体で約７５〜１００文字）○○○○○○○ことで、○○○○○○○○○○○○○についても明らかにすることが可能であり、○○面での大きな進歩が見込まれる。こうした結果から、これまでの５７．関連する研究に対するインパクト（全体で約７５〜１００文字）○○○○○○○研究に、○○○○○○○○○○○○○という視点をつけ加えることが可能となる。こうしたアプローチは、当該分野だけでなく５８．波及効果○○○○や○○○○○○○○○○○にも適用可能であり、幅広い研究分野において○○○○○○○を調べるための良いモデルとなると期待される。  |

(4) 年次計画

　　DC1申請者は１～３年目、DC2申請者は１～２年目について、年次毎に記載してください。元の枠に収まっていれば、年次毎の配分は変更して構いません。

|  |
| --- |
| （１年目）ＤＣ（１−１）研究計画１-1　５９．計画１-1の内容を簡潔に説明（約３０文字）○○○○○を行う。６０．計画１-1の内容をもう少し詳しく説明（文全体で５０〜７５文字）○○○○○することで、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を行う。（２）研究計画2　６１．計画２ですること1を説明（文全体で７５文字）○○○○○○○○について検討し、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を明らかにする。これにより、６２．すること1で達成できることを説明（文全体で約５０文字）○○○○○○することを可能にする。さらに、６３．計画２ですること２を説明（文全体で５０〜７５文字）○○○○○○○○行い、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を決定する。（２年目）（１−2）研究計画1-2　６４．計画1-２ですることを説明（文全体で５０〜７５文字）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○を行う。研究計画１−１の結果と合わせることで、６５．研究計画1で明らかにしたいこと（約３０文字）○○○○○について一定の解答を得る。くわえて、６6．研究の発展形（約３０文字）○○○○○○○○○○○○○○○○についても検討する。（３）既存の理論および新しい理論との比較　研究計画１・２で得られた結果をもとに、６7．研究３ですることを説明（約３０文字）○○○○○を行う。これにより、６8．達成できることの説明（約２０文字）○を明らかにする。（３年目）（DC２申請者は記入しないでください。） |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　申請者登録名

(5) 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本欄には、研究計画を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合に、どのような対策と措置を講じるのか記述してください。例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続きが必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続きの状況も具体的に記述してください。

なお、該当しない場合には、その旨記述してください。

|  |
| --- |
| 　申請研究は「６9．関連する法令等◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯」ならびに「◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯」および、「◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯」・△△大学の「◯◯◯◯◯規程」を遵守しておこなわれる。◯◯◯◯◯◯◯（例:使用する遺伝子組換え体）◯◯◯はこれらの法律、規定などに定められた適切な設備において取り扱われる。 |

申請者登録名

4．研究業績（下記の項目について申請者が中心的な役割を果たしたもののみ項目に区分して記載してください。その際、通し番号を付すこととし、該当がない項目は「なし」と記載してください。申請者にアンダーラインを付してください。業績が多くて記載しきれない場合には、主要なものを抜粋し、各項目の最後に「他○報」等と記載してください。査読中・投稿中のものは除く）

(1) 学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書（査読の有無を区分して記載してください。査読のある場合、印刷済及び採録決定済のものに限ります。）

 著者（申請者を含む全員の氏名（最大20名程度）を、論文と同一の順番で記載してください。）、題名、掲載誌名、発行所、巻号、pp開始頁－最終頁、発行年をこの順で記入してください。

(2) 学術雑誌等又は商業誌における解説、総説

(3) 国際会議における発表（口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して記載してください。）

　　　著者（申請者を含む全員の氏名（最大20名程度）を、論文等と同一の順番で記載してください。）、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。発表者に○印を付してください。（発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載しても構いません。）

(4) 国内学会・シンポジウム等における発表

　　　(3)と同様に記載してください。

(5) 特許等（申請中、公開中、取得を明記してください。ただし、申請中のもので詳細を記述できない場合は概要のみの記述で構いません。)

(6) その他（受賞歴等）

|  |
| --- |
| （１）学術雑誌等（紀要・論文集等も含む）に発表した論文、著書1. **Yamada Taro**, Saito Hanako, OOO OOO, and XXX XXX. “７０．業績Title oooooo oooo oooooo ooooo.” *Nature*, Nature Publishing Group, 100巻2号, pp100-102, 2016年 [査読あり]
2. **山田 太郎**、斉藤 花子、○○ ○○、△△ △△. 「ナウマン象の卵におけるグルタミン酸含有量」、象の世界、象出版、10巻5号、pp100-102、2015年 [査読なし]

（２）学術雑誌等又は商業誌における解説、総説なし（３）国際会議における発表1. ○**Yamada Taro**, Saito Hanako, OOO OOO, and XXX XXX. “Title ooooooo ooooo oooo oooooo ooooo.”, Annual Meeting of Elephant World, E03S, Nojiriko University, 1月・2016年

（４）国内学会・シンポジウム等における発表1. ○**山田 太郎**、斉藤 花子、△△ △△、△△ △△. 「ナウマン象の卵で作る目玉焼きの味と栄養価についての検討」、日本目玉焼き学会、A01、野尻湖大学、5月・2015年

（５）特許等なし（６）その他1. ベストポスター賞　第20回 日本目玉焼き学会、野尻湖大学、5月・2015年
2. プレスリリース　「ナウマン象の目玉焼きを現代に再現！」、2015年4月15日

○○新聞 4月15日夕刊33面　および　○○新聞 4月15日朝刊9面に掲載 |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　申請者登録名

5．自己評価

　日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、申請者本人による自己評価を次の項目毎に記入してください。

　① 研究職を志望する動機、目指す研究者像、自己の長所等

　② 自己評価する上で、特に重要と思われる事項（特に優れた学業成績，受賞歴，飛び級入学，留学経験，特色ある学外活動など）

|  |
| --- |
| 　私は、７１．申請者の研究分野から７２．関連するが、より広い問題を解決するために、学部生時代には７３．勉強したことや○○○といった実学に近い分野の講義を取り勉強してきました。また、生きた知識を身につけるために実習などにも参加し、７４．(72)に関係すること1-1や○関係すること1-2○について学んできました。また、７５．特色ある学外活動を通じて、７６．(72)に関係すること2についても経験を深めてきました。こうした経験を通じて、私は７７．(71)と同じ分野における７８．(72)で指摘した問題をもう少し具体的に指摘は、実学と基礎科学における相互の理解不足にあるという思いを強くしました。　このことを基礎科学側から明らかにするために、修士課程に進んでからは、７９．勉強したことや○○○といった基礎的な学問分野の講義だけでなく、○○○といった直接は関係ない異分野の講義も受講し、自身の知見を広げることに務めてきました。修士課程での経験を通じて、私は実学と基礎科学の融合が、今後、問題を解決してく鍵となるという思いを一層深めました。　こうした理由により、私は８０．将来の夢 将来、大学または公的な研究機関で研究者として、基礎科学の立場から実学と基礎科学の融合を目指したいと考えています。特に、応用志向の基礎科学研究を行うことで、８１．具体的にどのような形で社会貢献するのか XXXにおける新たな標的遺伝子の発見やYYYの解明を通じて、ZZZの向上やAAAといった形で社会に貢献していきたいと考えています。また、８２．目的を達成するための別のアプローチ研究だけでなく、私自身の知識や技術を次世代の学生達へと伝えていくことでも、実学と基礎科学の融合を目指したいと考えています。８３．もう少し具体的なアクションプラン基礎科学の研究職を目指す学生への指導だけでなく、実学としての◯◯に関心がある学生に基礎科学の視点を身に付けさせることにも努めていきたいと考えています。さらに、８４．(81)に加えた社会貢献の提案XXXの経験やYYYの知識を活かし、新しい技術や知見、及び既存の技術の正しい理解をZZZに普及させることにも積極的に努めたいと考えています。　私はこうした８５．(81)と同じ研究者になるため、私はこれまで、分野を問わず広い視野を持って論文を読みすすめてきました。さらに、８６．研究者に求められるコミュニケーション能力アピールBBBなど他分野の研究についても積極的に理解し自分のものとするために、勉強会を主催し知識だけでなく人的ネットワークの形成も行っています。こうした、主体的に行動する力は私の長所であり、今後、自立した研究者になるための大きな力になると考えています。　私は学術振興会特別研究員として研究者の第一歩を踏み出すことを希望します。特別研究員として、これまでの取り組みをさらに発展させ、実学と基礎科学の融合を促進することで、日本だけでなく世界が抱える８７．(72)で指摘した問題のおさらい問題を基礎科学研究者の立場から解決することに私の力を注いでいきたいと思います。 |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　申請者登録名